



平成27年7月9日

各 位

上場会社名 株式会社 PALTEK
 代表者 代表取締役社長 矢吹 尚秀
 (コード番号 7587)
 問合せ先責任者 取締役オペレーショナルサービスディビジョン本部長 井上 博樹
 (TEL 045-477-2000)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成27年4月9日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成27年12月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成27年1月1日～平成27年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	12,500	550	530	325	28.99
今回修正予想(B)	13,300	750	715	460	41.44
増減額(B-A)	800	200	185	135	
増減率(%)	6.4	36.4	34.9	41.5	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成26年12月期第2四半期)	11,677	418	389	228	19.99

平成27年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成27年1月1日～平成27年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	26,000	1,050	1,010	625	55.75
今回修正予想(B)	27,500	1,200	1,145	735	66.21
増減額(B-A)	1,500	150	135	110	
増減率(%)	5.8	14.3	13.4	17.6	
(ご参考)前期実績 (平成26年12月期)	23,155	1,008	1,052	563	49.31

修正の理由

第2四半期連結累計期間の業績につきましては、医療機器および産業機器向けのFPGA、オフィス機器向けの汎用ICなどが堅調に推移したため、前回発表の業績予想を上回る見通しです。利益面につきましては、第2四半期において利益率の低い製品の売上構成比が上昇するも、当社が仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額の増加を含む為替レート変動による影響が178百万円発生することが見込まれるため、この評価額の増加等が原価を押し下げることにより、営業利益が増加し業績予想を上回る見通しです。経常利益および四半期純利益につきましては、営業利益の増加に伴い業績予想を上回る見通しです。

この仕入値引ドル建債権は、一部の主要仕入先との取引方法において発生します。量産案件において特価を提示する場合、実際の仕入値の減額ではなく、当社がお客様に製品を出荷したことを仕入先に報告することによって、仕入先から仕入値の減額相当分の値引債権が発行されます。この値引債権がドル建であるため、為替相場の変動により評価額が増減します。評価額の増減については、半導体製品の値決め時の為替レートと納入時の為替レートの差により発生するため、ドル円相場が円安に進行する際には評価額がプラスになります。今回発生した仕入値引ドル建債権の評価額の増加については、主に2015年第2四半期末付近で納入した半導体製品が大きく影響しています。第2四半期連結累計期間における仕入値引ドル建債権の評価額の増加を含む為替レート変動による影響は、累計で356百万円発生しており、営業利益を増加する要因となっております。

通期連結業績予想につきましては、売上高は、第2四半期連結会計期間における業績予想を上回る見通しであることに加え、下期において新たに取引を開始するお客様向けのFPGAおよびアナログ半導体などが増加することが見込まれるため、業績予想を上回る見通しです。利益面につきましては、下期において利益率の低い製品の構成比率が上昇すること、および新たに取り扱いを開始する顧客の初期の利益率が低いことなどにより、下期における営業利益が減少しますが、第2四半期連結累計期間に発生した仕入値引ドル建債権の評価額の増加が大きく影響し、業績予想を上回る見通しです。

※上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

以上